

令和6年度普及活動アルバム

松本農業農村支援センター

令和6年度は、温暖化、特に夏にかけての異常高温などの気象変動が農業生産に大きな影響を与え、また近年の燃油や資材価格、労務費の上昇と進まない農産物の価格転嫁問題から経営を一層圧迫されました。環境問題はすでに農業経営が直面している問題で、適正施肥や農薬使用の削減等は、環境にやさしい農業だけでなくコスト削減による経営改善としても重要な課題になっており、緑肥の活用や除草ロボットの導入等の取組を推進しました。また、農業の担い手減少に対して従来からの新規就農者の確保に取組むとともに、経営知識の習得や作業効率向上のため各種講座を開催しました。



【6月】

環境にやさしい農業の推進

有機農業の一層の推進と水田除草の課題を解決するため、近年開発された除草ロボットや乗用除草機の除草効果を確認するため実演会を開催しました。

生産者、J A、行政機関等、約70名が参加し、有機農業への関心の高さが伺えました。



【7月】

環境にやさしい農業の推進

環境に配慮した農業が求められる中、「ヘアリーベッチ」を緑肥に活用した「スイートコーンの減肥栽培」に取り組みました。緑肥の活用について、指導的立場の技術者に広く知ってもらうため、現地検討会を開催し、32名が参加し、情報共有を行いました。



【7～2月】

長芋の安定生産の推進

大雨によるナガイモ畝の陥没発生について、部会員にアンケート調査を行い見えてきた傾向を情報共有し、各種排水対策の有効性について部会員と取り組みました。8月にはナガイモ排水試験検討会を開催し、JA根菜部会の20名が参加しました。



【8月】

新規就農者確保の活動

りんごの新たな担い手確保を目指して、里親研修の受け入れ体制を構築するため、JAあづみと連携し、里親登録に係る農家向け説明会を開催しました。

地域の課題である担い手不足の現状と里親研修制度の理解を深めてもらい、JAあづみ管内で新たに4名の農家が里親登録になりました。



【8月～2月】

新規就農者の技術向上

新規就農者の資質向上を図るため、アグリマスターセミナー基礎講座を開催しました。14名（うち里親研修生5名）が参加し、農作業安全・病害虫防除・土づくり等の各講座を開催しました。講義だけでなく活発な意見交換も行われ、受講生同士の仲間づくりを図ることができました。



【9月】

果樹新規就農者の支援

果樹の新規就農者や里親研修生を対象に情報交換会を開催しました。フリートークでは、農地や機械・施設の確保、労務管理について、課題や対応策について活発な意見交換が行われました。今後のために、病害虫の診断方法や熟度調査の体験もしてもらいました。



【5～2月】

新規就農者の確保支援

果樹産地の担い手確保を目的に、JA あづみ主催の就農体験会の開催を支援しました。

剪定作業から、りんごの葉摘み・玉まわし・収穫・選果まで、年間を通じた作業体験や生産者との意見交換を実施し、参加者からは高い評価を得ました。令和7年度も体験会の継続を計画しており、冬季体験会には16名が参加しました。



【11月】

化学肥料の削減

水稻の生産者を対象に講習会を開催し、圃場の地力の指標になる可給態窒素の簡易分析を行いました。参加者は、自身の圃場の分析を行い、その手法を学びました。また、測定後は、結果を共有し、土づくりについて意見交換をしました。参加者からは、毎年測定を行いたい、土づくりに活かしていきたいとの声があり、土づくりへの関心が一層高まりました。



【12月】

青年農業者の交流推進

コロナ禍で希薄になっていた農業者同士の繋がりを再構築するきっかけとなることを目的に、松本地域青年農業者交流会を4年ぶりに対面形式で開催しました。

次世代の松本地域農業を担う青年農業者が一堂に会し、活発な交流と学びの場となりました。



【1月】

女性農業者の経営改善

農作業の効率化や経営課題の解決を目的に、女性農業者を対象とした「トヨタ式カイゼン手法」を学ぶ講座を開催しました。

第1回は講義、第2回は作業動画を用いたグループ討議を行い、26名が参加し、活発な意見交換が行われました。

「自分の経営に生かしたい」との声も多く聞かれ、関心の高さが伺われました。



【2月】

農業士の技術・経営支援

農業士協会安曇野支部では、支部内・国内の視察研修を実施しており、本年度は新技術や経営力強化を目的にデータ駆動型農業の導入先進地である高知県への視察研修を行いました。環境モニタリングシステム導入施設を見学し、自身の経営における今後のデータ活用やスマート農業技術について、知見を深めました。